

中小企業景況調査報告書

令和8年 4月 ～ 6月期 実績
令和8年 7月 ～ 9月期 見通し

鹿児島県商工会連合会

(令和8年7月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速・的確に収集して、全国商工会連合会と連携し、全国一斉に実施しているものです。

この報告書の中で、用いられているDI指数とは、デフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好 調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不 振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	--	---	--	--

- 調査対象期間 令和8年4～6月期を対象とし、調査時点は令和8年6月1日とした。
令和8年7～9月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 かごしま市・南九州市・薩摩川内市・長島町・伊佐市・姶良市・霧島市
曾於市・志布志市・東串良町・南大隅町・西之表市・あまみ・徳之島町
- 回答企業 対象企業 209 企業
製造業：42 企業 建設業：31 企業 小売業：60 企業 サービス業：76 企業

県内産業別業況DI

	製 造 業		建 設 業		小 売 業		サービス業	
7年 4 月 ～ 6 月 期		▲12.5		16.6		▲23.3		▲22.4
7年 7 月 ～ 9 月 期		▲31.7		20.0		▲37.7		▲15.8
7年 10 月 ～ 12 月 期		▲21.9		10.0		▲39.3		▲21.6
8年 1 月 ～ 3 月 期		▲14.7		16.6		▲40.0		▲11.8
8年 4 月 ～ 6 月 期		0.0		▲19.4		▲40.0		▲20.0
来期見通し(7～9月期)		▲9.7		▲16.1		▲46.6		▲14.7

総 合 (業況)

前年同期(令和7年4月～6月期)と比較した今期(令和8年4月～6月期)の業況は、製造業0.0(前年同期比12.5ポイント改善)、建設業▲19.4(前年同期比36.0ポイント悪化)、小売業▲40.0(前年同期比16.7悪化)、サービス業▲20.0(前年同期比2.4ポイント改善)となった。

また、前期(令和8年1月～3月期)と比較すると、製造業14.7ポイント改善、建設業36.0ポイント悪化、小売業0.0ポイント変化なし、サービス業8.2ポイント悪化となった。今期については、中東情勢の影響による原材料の価格高騰や仕入商品の品薄が経営状況に影響を及ぼしていることがみられ、これらの要因は全業種において経営上の問題点の上位を占めている。

なお、来期(令和8年7月～9月期)の見通し(DI)は、今期と比較すると、製造業9.7ポイント、小売業6.6ポイント悪化の見通しとなるものの、建設業3.3ポイント改善、サービス業は5.3ポイント改善の見通しとなる。原材料の価格高騰に加え、賃上げに伴う採用難や人手不足による働き方への影響が今後も続く見込みである。さらに、今後も続く値上ラッシュによる消費者の購買力低下が需要の停滞を招き、中小企業・小規模事業者にとっては、利益確保が一層厳しい経営環境が続くと考えられる。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 42 企業

調査対象企業内訳：食料品(20)、飲料・飼料・たばこ(7)、衣類・その他繊維製品(1)、家具・装備品(2)、印刷・同関連(3)、プラスチック製品(1)、窯業・土石製品(1)、金属製品(2)、一般機械器具(2)、その他(3)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
7 年 4 月 ～ 6 月期		▲2.4		▲31.0		▲2.4		▲12.5
7 年 7 月 ～ 9 月期		▲21.9		▲43.9		▲19.6		▲31.7
7 年 10 月 ～12 月期		▲17.1		▲26.8		▲10.0		▲21.9
8 年 1 月 ～ 3 月期		▲4.9		▲17.1		▲7.3		▲14.7
8 年 4 月 ～ 6 月期		12.2		▲7.3		▲4.9		0.0
来期見通し(7～9 月期)		▲2.4		▲14.3		▲4.7		▲9.7

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・県内などの需要は頭打ちで、今後も大幅に改善する予想はたてにくいので、新規商品、サービスを展開する必要がある。海外などへ取組も考えていった方がよいと思う。(食酢製造業)
- ・ナフサ由来製品の不足による仕入価格の上昇が懸念される。原材料価格については、数年前までは、年での値上げが、直近では月で値上がりすることもあり製品への価格転嫁が困難。(食品製造業)
- ・中東情勢に関連して製品ラベルが10%～15%値上がりする通達を取引業者から受けている。また、缶の製造に使うアルミも値上がる見込みという報道もあり、原材料高の影響をジワジワと感じている。(清涼飲料製造業)

経営上の問題点

第1位	原材料価格の上昇	56.8%	(前期比	+21.5)
第2位	需要の停滞	13.5%	(前期比	-1.2)
第3位	製品ニーズの変化	8.1%	(前期比	+5.2)
第3位	原材料費・人件費以外の経費の増加	8.1%	(前期比	-0.7)

【建設業】 有効回答数 31 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(22)、職別工事業(7)、設備工事業(2)

	完成工事額		採 算		資金繰り		業 況	
7 年 4 月 ～ 6 月期		24.2		▲10.3		10.0		16.6
7 年 7 月 ～ 9 月期		20.0		0.0		23.4		20.0
7 年 10 月 ～12 月期		16.6		0.0		16.6		10.0
8 年 1 月 ～ 3 月期		20.0		▲13.3		6.6		16.6
8 年 4 月 ～ 6 月期		▲25.8		▲35.5		▲19.4		▲19.4
来期見通し(7～9 月期)		▲25.8		▲32.2		▲19.3		▲16.1

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・省エネ基準厳格化によるエアコン工事の駆け込み需要の影響で売上が大きく上がっている。(一般電気工事業)
- ・手元の工事が完了に近づいているが、豪雨災害復旧の官公発注がいったん落ち着いている為、次の受注に不透明感(不安)がある。燃料や資材リース料等も軒並みアップしてきており、受注しても設計価格との乖離が見られる。(一般土木建築工事業)
- ・この数ヶ月で物価がこれまでにない上昇率となっており、顧客の支払能力を超えてしまうような状況である。資材流通の目づまり、人材不足とあいまってトリプルパンチを受けている。今後、注視して対策を打つ必要あり。(一般土木建築工事業)

経営上の問題点

第1位	材料価格の上昇	48.3%	(前期比	+18.7)
第2位	材料の入手難	13.8%	(前期比	+13.8)
第3位	従業員の確保難	10.3%	(前期比	-19.3)

【小売業】 有効回答数 60 企業

調査対象企業内訳：各種商品(10)、織物・衣服・身の回り品(6)、飲食料品(30)、家具・建具(3)、自動車・自転車小売業(1)、その他(10)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
7 年 4 月 ～ 6 月期		▲16.4		▲30.0		▲14.7		▲23.3
7 年 7 月 ～ 9 月期		▲29.5		▲41.0		▲29.5		▲37.7
7 年 10 月 ～12 月期		▲39.4		▲47.6		▲31.7		▲39.3
8 年 1 月 ～ 3 月期		▲37.7		▲40.9		▲31.7		▲40.0
8 年 4 月 ～ 6 月期		▲25.0		▲51.7		▲32.8		▲40.0
来期見通し(7～9 月期)		▲25.8		▲41.7		▲22.8		▲46.6

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・価格転嫁が完全にできておらず利益が減少する中で、近日近隣にオープンする大型ドラッグストアへ顧客流出を懸念しています。(各種食料品小売業)
- ・中東情勢による物流の混乱、仕入価格の上昇や商材の仕入難と最悪の状況。価格も上げられず利益率を下げる、商品をお客様に提供できず売上が立たない。過剰在庫や借入返済でキャッシュフローが追いつかない状況。(各種食料品小売業)
- ・仕入単価があらゆる商品で上がっており、売価を上げる必要があるが、顧客の購買力が追い付かず、売上に繋がりにくいと感じる。(酒小売業)

経営上の問題点

第 1 位 仕入単価の上昇	28.3% (前期比 +5.9)
第 2 位 需要の停滞	17.0% (前期比 +4.8)
第 3 位 大型店・中型店の進出による競争の激化	13.2% (前期比 -1.1)

【サービス業】 有効回答数 76 企業

調査対象企業内訳：一般飲食店(一般・遊興)(24)、宿泊業(9)、運送業(2)、自動車整備業(9)、洗濯・理美容業(16)、その他(16)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
7 年 4 月 ～ 6 月期		▲17.3		▲26.3		▲14.7		▲22.4
7 年 7 月 ～ 9 月期		▲15.8		▲22.3		▲18.6		▲15.8
7 年 10 月 ～12 月期		▲16.2		▲25.7		▲9.6		▲21.6
8 年 1 月 ～ 3 月期		▲9.2		▲26.7		▲5.4		▲11.8
8 年 4 月 ～ 6 月期		▲13.3		▲28.0		▲9.5		▲20.0
来期見通し(7～9 月期)		0.0		▲25.3		▲9.4		▲14.7

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・原材料の値上げの案内が毎月のようにあり、価格転嫁が追い付かない状況。また人件費の増加が経営を圧迫しており、人手不足ではあるものの雇用が出来ない状況にある。(専門料理店)
- ・仕入、容器代すべてにおいて物価高騰により利益が出ない状況。価格を上げることを検討している。(食堂レストラン)
- ・車両整備やタイヤ販売の固定需要により売上・所得は一定確保しているが、地域需要の伸び悩みや部品・タイヤ等の仕入価格上昇が負担。(自動車整備業)

経営上の問題点

第 1 位 材料等仕入単価の上昇	41.8% (前期比 +8.5)
第 2 位 利用者ニーズの変化	13.4% (前期比 +2.3)
第 3 位 店舗施設の狭隘・老朽化	7.5% (前期比 -3.6)
第 3 位 人件費以外の経費の増加	7.5% (前期比 +7.5)

全産業【鹿児島県】

全産業

鹿児島県

令和8年4月～6月期

	今期（前年同期比）					来期（対前年同期比来期見通し）				
	企業数	↑	→	↓	D I	企業数	↑	→	↓	D I
売上・完成工事・加工・収入額	207	24.2	38.2	37.7	-13.5	206	20.4	47.6	32.0	-11.7
売上（加工）単価・客単価	175	30.9	53.7	15.4	15.4	176	22.7	62.5	14.8	8.0
売上（加工）数量	41	34.1	29.3	36.6	-2.4	42	26.2	38.1	35.7	-9.5
客数	60	11.7	48.3	40.0	-28.3	59	10.2	50.8	39.0	-28.8
利用客数	74	23.0	36.5	40.5	-17.6	75	24.0	49.3	26.7	-2.7
資金繰り	204	8.3	66.7	25.0	-16.7	204	8.8	68.6	22.5	-13.7
輸出額	13	15.4	61.5	23.1	-7.7	15	20.0	66.7	13.3	6.7
受注（新規契約工事）額	31	19.4	38.7	41.9	-22.6	31	6.5	54.8	38.7	-32.3
原材料・商品等仕入れ単価	202	86.6	12.4	1.0	85.6	204	81.9	17.2	1.0	80.9
原材料在庫数量	41	12.2	75.6	12.2	0.0	42	14.3	78.6	7.1	7.1
商品仕入数量	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
商品仕入額	60	61.7	23.3	15.0	46.7	60	58.3	21.7	20.0	38.3
商品・商品在庫数量	97	9.3	69.1	21.6	-12.4	99	5.1	75.8	19.2	-14.1
採算（経常利益）	207	10.1	47.8	42.0	-31.9	208	8.2	54.8	37.0	-28.8
従業員（含臨時・パート）	151	6.6	84.1	9.3	-2.6	151	2.0	72.2	3.3	-1.3
外部人材（請負・派遣）	72	5.6	88.9	5.6	0.0	82	4.9	90.2	4.9	0.0
設備稼働率	38	21.1	60.5	18.4	2.6	39	12.8	61.5	25.6	-12.8
引合	66	19.7	62.1	18.2	1.5					0.0
受注・契約残	66	9.1	66.7	24.2	-15.2					0.0
業況（自社）	206	12.1	53.9	34.0	-21.8	207	9.7	57.5	32.9	-23.2

	今期（前年同期比）					来期（対当期比見通し）				
	企業数	↑	→	↓	D I	企業数	↑	→	↓	D I
売上・完成工事・加工・収入額	208	26.4	39.4	34.1	-7.7					
売上（加工）単価・客単価	176	23.9	58.5	17.6	6.3					
売上（加工）数量	41	26.8	36.6	36.6	-9.8					
客数	60	15.0	46.7	38.3	-23.3					
利用客数	75	25.3	38.7	36.0	-10.7					
資金繰り	205	9.8	69.3	21.0	-11.2					
業況（自社）	207	10.1	57.5	32.4	-22.2	205	11.7	54.6	33.7	-22.0
受取手形期間	29	0.0	96.6	3.4	-3.4	30	0.0	96.7	3.3	-3.3
長期資金借入難度	139	4.3	82.7	12.9	-8.6	138	3.6	81.9	14.5	-10.9
短期資金借入難度（含手形割引）	107	4.7	87.9	7.5	-2.8	107	5.6	85.0	9.3	-3.7
借入金金利	141	29.8	69.5	0.7	29.1	143	31.5	67.8	0.7	30.8

	今期の水準				
	企業数	↑	→	↓	D I
業況（自社）	209	13.4	47.8	38.8	-25.4
生産に対する原材料在庫	41	0.0	90.2	9.8	-9.8
売上に対する製品在庫	99	9.1	84.8	6.1	3.0
採算（経常利益）	209	27.3	49.3	23.4	3.8
引き合い	68	10.3	67.6	22.1	-11.8
生産設備	41	4.9	82.9	12.2	-7.3
従業員（含臨時・パート）	157	1.3	77.7	21.0	-19.7

上2表

↑：増加・上昇・好転・長期化・容易
→：不変
↓：不足・低下・悪化・短期化・困難

左表

↑：良い・過剰・黒字・活発
→：ふつう・適正・収支トントン・ふつう
↓：悪い・不足・赤字・低調

産業別 過去3年間の業況DI(前年同期比)の推移
(令和5年7～9月期～令和8年4～6月期)

